

児童養護施設さんあい

一時保護所オリーブ（男子・女子）

自立援助ホーム三愛子ひつじ寮



「あなたの居場所はどこにある？」



理事長兼施設長 高瀬 一使徒

児童福祉の現場では「居場所支援」という言葉をよく耳にします。

貧困や虐待等の理由で家庭の中にあっても自分の居場所のない子がいます。また学校や部活の中でも孤立してしまい、自分の居場所を見つけられない子どもたちがいます。自分の居場所がないと感じている子どもたちに対しては、物理的な居場所や役割を与えることではそのニーズを解消することはできません。

「自分には居場所がない」と訴える子どもたちの本当のニーズは、心の居場所がないということなのです。では私たちはそのようなニーズに対してどのように答えてあげればいいのでしょうか？ 実は人の心の居場所は、他人の心の中にしか作ることはできません。つまり自分の関係している相手の心の中に自分の居場所は存在するのです。人は関係する相手の心に受け入れられていると感じる時に初めて自分の居場所を認識できます。逆の例を上げれば、裕福な家庭で自分の部屋、自由があったとしても居場所のない子はいるのです。それは親や友達の心の中に自分の居場所を認識できないからです。ですから居場所支援の第一歩は、子どもたちが自分は受け入れられていると感じられるような関係づくりから始めなければなりません。これには時間を要しますが、居場所支援の第一歩です。また、相手は受け入れているのに本人がそのように認識できず、相手との関係を築けないケースも多々あります。従って引き込んでいる子どもたちへの励ましや認知のゆがみを直してあげることも重要な支援です。最後に、私たちは支援者として、或いは一個人として、自身の心の中に他の人の居場所があるか常に見つめる必要があります。

コロナ禍で子どもたちにとってストレスの多い生活が続いています。しかしもう少しで楽しい夏休みです。夏になればマスクを外しプールや近くの沢で思いっきり遊べます。頑張れ子どもたち！ 一方、4月から入職した新任職員の方々にとってもこの時期は一番の踏んばりどころです。新しい生活環境への適応や社会人1年目の緊張、そして子どもたちの試し行動も多くなってきます。体調を崩さずこの時期を乗り越えられるよう応援しています。

さんあい祭り（創立記念祭）

さんあい祭りの意義

さんあい祭り（創立記念祭）の大きな意義は3つあります。

1つ目は、創立の精神と労苦を思い出す時です。

2つ目は、創立以来お世話になっている支援者や地域の皆様へのお礼の時です。

3つ目は、三愛創立をみんなで喜び楽しむ時です。

コロナの影響で2019年の最後に、2年連続で記念祭を自粛していましたが、今年は何としてでも開催したいという決意のもと、6月4日に実現できました。当日の午前中は近隣の支援者をお招きして創立記念式典を行い、午後はさんあいの中庭で子どもたちと職員だけで綿菓子、ポップコーン、かき氷の屋台を出して楽しいひと時を過ごしました。

第一部（記念式典）

式典の中で高瀬範子理事に創立の経緯や当時の様子を聞かせていただき、改めて草創期の想いやご苦労を知ることができました。三愛学園の創立者である高瀬美武・範子ご夫婦は、「神を愛し、人を愛し、土を愛す」という三愛精神を法人理念として掲げました。短く覚えやすいフレーズですが、その意味はとても深いものです。私は普段「愛し」という部分を「大切にし」と置き換えて職員に説明しています。

「神を愛し」は「神を大切に」ということになりますが、「天の父である神に甘えること」と説明しています。そして「人を愛し」は、「人を大切にし」、「土を愛す」は、土を生活基盤の象徴と捉えて、「生活を大切にする」と説明しています。

三愛学園はこれからも創立の精神を大切にして発展していきたいと願っております。皆様方の変わりなきご支援を、今後ともよろしくお願いいたします。

（高瀬）



第二部（お祭り）

午後からは、五月晴れの空の下、中庭に集まり、子ども達の楽しみにしていたお祭りのスタートです。
まず初めに、こちらもコロナの影響で実施できなかった「入園・入学を祝う会」を行いました。
2か月ほど遅れてしまいましたが、全員そろってお祝いする事ができました。

続いて毎年恒例の新任職員による出し物です。今年はクイズ大会で盛り上がりました。



次はお祭りのお楽しみ、綿菓子・ポップコーン・かき氷です。何回もおかわりに並びました。30度を越える暑い日になって、かき氷のシロップの味を変えて何杯でも食べられました。



最後はビンゴ大会！
頂き物のおもちゃや文房具を
みんなで楽しく分け合いました。



さんあいセミナー「児童のネット依存・ゲーム依存への対処法」

「さんあいセミナー」は、園のリソースや人的つながりを使って、地域の方々をお招きして共に学ぶ機会。コロナ禍でしばらくお休みをせざるを得なくなっていました。暑さが厳しくなりだした6月22日、感染症対策をし、人数を制限、一部の方にはオンラインで視聴をしていただくというハイブリッド形式で、久しぶりにさんあいセミナーを開催することができました。

講師は、独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター 医療福祉相談室長の前園真毅先生。先生はネット依存治療研究部門 認知症治療疾患センターの仕事も兼務しておられます。テーマは、「児童のネット依存・ゲーム依存への対処法」。

一般的に「ネット依存」「ゲーム依存」と呼ばれる症状ですが、ゲーム障害（Gaming disorder）として世界保健機関（WHO）が初めて認定したのは2019（令和元）年。ギャンブル障害などと同じ精神疾患に分類、治療が必要な疾患として位置づけられています。



現代においてインターネットやスマートフォンは、私たちの身近な存在になり、ゲームもオンラインゲームが主流になっています。ゲームの合間に、SNSや動画配信を見るなど、結果的にネット機器のスクリーンに長時間捉われたことによる健康被害が広がっています。その影響を受けて被害に遭いやすいのは子ども達。

さんあいの子もたちも高校生全員がスマートフォンを持っています。コロナ禍もあり、小中学校でも子どもたちのパソコンやタブレットの使用が促進されています。いまやインターネットやスマートフォンは社会に出ていくために必要なスキルや知識を得られるツールとなりつつあります。しかし、そのツールが、健康被害や学習、生活の妨げにならないよう、また万が一、そのような状況に陥ったときの対処方法について考える貴重な時間となりました。



※ 独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センターの以下のサイトにネット依存・ゲーム依存に関する情報が掲載されています。 <https://kurihama.hosp.go.jp/>

職員研修「社会的養護の現状と方向性」

社会の移り変わり同様、児童福祉の分野でも新しい制度や施策、それに合わせた取り組みがあります。最前線で働く職員にとっても、その変化や動きは決して無縁ではありません。

昨年度よりさんあいのスーパーバイザーをしてくださっている櫻井奈津子先生は、児童養護施設での勤務経験を経て、児童福祉の研究と教育に長く携わってこられた方です。5月、その先生に児童養護をめぐる近年の状況を、全職員を対象に講義をしていただきました。



講義では、2017年に厚生労働省が出した「新しい社会的養育ビジョン」の進捗状況から、来年度に見込まれている児童福祉法の改正までを俯瞰し、児童養護施設に期待されていること、職員ひとりひとりに求められる役割について考えるものでした。

時代の変化は着実に来ていますが、それに臆することなく、守るべきものは守る「決意」、そして変えるべきものは変える「勇気」が必要なことを実感する機会でした。先生には年間を通して職員の知識や技術、そしてメンタル面のサポートをお願いしています。

コラム： 子どもの権利擁護 第2回

“Nothing about us without us”（私たち抜きに私たちのことを決めないで）は、障害者の権利運動で長く使われてきたスローガンで、昨年の東京パラリンピックの式典の中でも紹介されていました。この理念は障害を持つ人だけでなく、子ども達を含むすべての人に通することです。

「子ども達のことを子ども達抜きに決めない」取り組みの一環として、さんあいでは、定期的に子ども会議を実施しています。年齢、性別、背景も違う他人同士の集団生活。学校や地域社会の状況にも照らし合わせて施設内では一定の約束や決まりごとがありますが、中には子ども達の視点から変えたほうが良いという要望が出されることもあります。

「お小遣いを増やしてほしい」「就寝時間を段階的に遅くしてほしい」は、先日の小学生会議で出された要望です。その他にも休みにやりたいことや、行きたい場所についての要望も出されました。それらについて、職員は子どもたちの意見を聴き、その場で説明や提案をしたり、別途、職員会議に諮ることを約束しました。結果は、改めて子ども達に報告することにもなっています。筋道を立てて話しができる中高生はもちろんですが、自分の気持ちを上手に言葉で表現できない年齢の子どもであっても、身振りや表情、絵といった非言語のコミュニケーションを通して理解に努めるように職員は気を付けています。

子どもはすべて年齢や能力の違いにかかわらず、ひとりひとりが権利主体です。自分に関わるあらゆることについて、子ども自身がきちんと自分の意見を言うことができ、またその意見が正当に重視されなければならない、と子どもの権利条約第12条はうたっています。

施設長補佐 平本 実

子ひつじ寮

沢山の方々に支えられて、三愛子ひつじ寮は開所 3 年目を迎えました。OBOGも増えました。ホームを巣立つ時には、「帰りたい、寂しい」「出て行きたくない」と言っていた子たちが新しい環境で頑張っている報告を聞くたびに嬉しくなります。苦しい時やつらい時に連絡をくれることもあります。SOS を出すということは勇気のいることです。「一人で抱え込まないでいてくれてありがとう。相談してくれてありがとう。あなたは一人じゃないよ。」ホームを巣立った後も、そっと心に寄り添うことのできるそんな温かいホームでありたいと思います。(浅野)

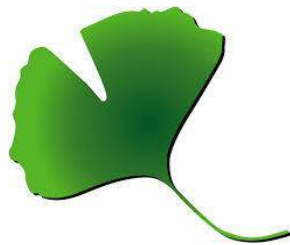
女の子オリーブ

毎日、パワフルに過ごしている子ども達、先日、行われたさんあい祭りにオリーブの子ども達も参加をしました。かき氷の手伝いをする子がいたり、ビンゴ大会では、オリーブの子が一番にビンゴとなったことも良い思い出です。一時保護という環境で配慮が必要なこともあります。行事を通し、楽しいことや興味のあることに目を向け、共有することの大切さを再確認することができました。(柳井)

小学校運動会

5 月 28 日に本郷小学校の運動会が開催されました。天気は晴れて、運動会日和。4 月に入職した私にとって初めての学校行事の参加だったので、子ども達が活躍する姿を見逃してしまわないか緊張していましたが、初めて運動会に参加する 1 年生の頑張る姿を見て、いつの間にか応援にも力が入っていました。施設内での姿しか知らなかった私にとって今回の運動会は、子ども達のいい所や、頑張っている姿を知りいい機会となりました。(賣野)

いちょうの広場



いちご狩り

5 月 22 日、昨年に引き続き安藤農園様からいちご狩りの招待をしていただきました。ハウスにはどこから摘めばいいのか迷ってしまうほど沢山の実をつけた苺の苗が広がっていました。子ども達は大はしゃぎで、皆お皿いっぱい収穫していました。100 個近く食べた子もいてびっくりです。隣接する牧場には牛やヤギがいて、エサやりの体験もさせて頂きました。ほとんどの子ども達は怖がることなく触れ合っていました。苺と動物でお腹も心も満たされた一日でした。(鈴木愛美)

アニマルクラブ

今年度は 12 名のメンバーでスタートしたアニマルクラブ。早速、6/12(日)にクラブのメンバーで近くにあるホームセンター内のペットコーナーに、いつもお世話をしている犬のボニーとトトのおやつを買いに行きました。自分のお小遣いを持って、自分専用のおやつを買いました。自分のお当番の時にだけあげられる自分だけの特別なおやつです。子ども達は、「ボニーはどんなおやつが好きかな?」「トトはどっちがよく食べてくれるかな?」と悩みながらも嬉しそうに購入していました。また、駐車場での危険性や、店内でのルール、支払い時のやり方なども教えながら一緒に行き、いい経験ができました。(村尾)

部活動の大会

6 月 14、15 日、中学総合体育大会が行われました。男子卓球の部に、さんあいからは 2 年生が 2 名出場しました。両名共に日ごろの練習の成果を発揮し力いっぱい試合に臨んでいました。昨年度と比べると明らかにキレの良くなった動きを見せてくれたのは感動的でした。本人達に感想を聞くとまだ納得いかない事が多かったようなので、来年の最後の中学総体では自分自身も満足いく結果が出せるように毎日の部活動を頑張ってもらいたいです。(奈良)

いつもあたたかいご支援ありがとうございます。

ご寄付は同封させて頂いた振込用紙、又は下記の口座にお願い致します。*お名前をお入れください*

埼玉りそな銀行 岡部支店 (普) 0058888

編集後記

先日、さんあい付近一帯に雹が降りました。収穫間近のトウモロコシが被害にあいました。そこで近隣の道の駅等で農家を応援する目的で、雹で傷つき市場に出せなくなったトウモロコシが「わけあり」品として通常価格より安く販売されました。この岡部地区のトウモロコシは“みらい”というブランド名が付いていてとても人気が高く、販売日には長い行列ができ、あっという間に完売したそうです。傷が付いたからと廃棄するのではなく、発想を変えピンチを見事にチャンスに変えました。子ども達との関りの中でも、これで良いのだろうかと思いつまる時がありますが、発想を変えポジティブに捉えていこうと思いました。(広報タスク一同)